

一般発表

地方大都市の私立大学スポーツ専門学部新入生の セグメンテーション

福岡大学スポーツ科学部 山口 幸生
藤井 雅人

キーワード：性別，大学選択理由，卒業時の理想像，競技レベル，クラスター分析

緒言

日本では少子化に伴う大学受験人口の長期的な減少を背景として，入学定員充足率100%未満の私立大学が47.5%も存在する。九州の私立大学においても，2018～2022年の5年間における定員充足率は87.96%から79.47%と8.49%低下している（日本私立学校振興・共済事業団，2022）。そのため多くの私立大学は学生募集戦略の大幅な刷新が求められている。この問題を解決する一つの手法として，米国では1970年代から大学教育の世界にデータに基づくマーケティング手法を導入し，大学マネジメントに活用してきた。またこの手法は学生募集のみならず，入学した学生の社会的価値を最大化する教育活動においても有用とされている（福島，2015）。上記マーケティング手法の中でセグメンテーションは核となるものの一つである。教育現場におけるセグメンテーションは「存在する不特定多数の学生をさまざまな切り口で分類し，特定の属性ごとに細分化するプロセス」と定義できる。この細分化プロセスでは地理的，人口動態，心理的，行動変数の4種類が一般に使用されている。特に心理的変数を使用したセグメンテーションの活用は，学生個人に働きかける場合の基礎情報として有益であると考えられる。

しかし，これまでのところ，スポーツ専門学部新入生のセグメンテーションに心理的変数を用いて行った研究は全くない。

目的

本研究では，主に心理的変数を用いて，地方大都市の私立大学スポーツ専門学部新入生をセグメンテーションし，セグメントの特徴比較することを研究目的とした。

方法

調査分析対象は，2020-21年のF大学スポーツ専門学部新入生575名であった。調査は入学当初の4月に初年次教育授業で案内し，オンラインでの回答を求めた。調査項目は，性別，学部選択理由，大学卒業時の理想像を各1項目，コンピテンシーテストの「対課題基礎力」「対人基礎力」「對自己基礎力」251項目（PROG，（株）リアセック），および新規作成の「やり抜く力」「親の統制的養育態度」「セルフコントロール」（各1項目）であった。分析にはTwo-Stepクラスター分析（SPSS Statistics Ver.26.0）を用いた。距離尺度に対数尤度を用い，クラスター化の基準にはSchwarz's Bayesian基準を用いた。また各セグメントの特徴を比較するため，一元配置分散分析を行った。有意水準は0.05未満に設定した。

結果

分析の結果，3つのセグメント（男子競技志向（以下MS）・男子勉強志向（MA）・女子勉強&競技志向（FAS））が抽出された。クラスター品質指標は，0.02を示し，分類は適正と考えられた。クラスター弁別における重要度は，性別，大学選択理由，大学卒業時の理想像，高校競技レベルの順に大きかった。MSでは，84%の学生が「競技力向上」を大学選択理由に挙げ，60%が「競技を活かして就職する」ことを大学卒業時の理想としていた。MAでは，99%の学生が「将来の勉強」を大学選択理由に挙げ，45%が「勉強して教員合格」，27%が「学業を頑張って就職」することを卒業時の理想としていた。FASでは，57%の学生が「将来の勉強」，39%が「競技力向上」を大学選択理由に挙げ，48%が「勉強して教員合格」，24%が「競技を活かして就職」することを卒業時の理想としていた。セグメントの特徴を比較したところ，MSとFASの学

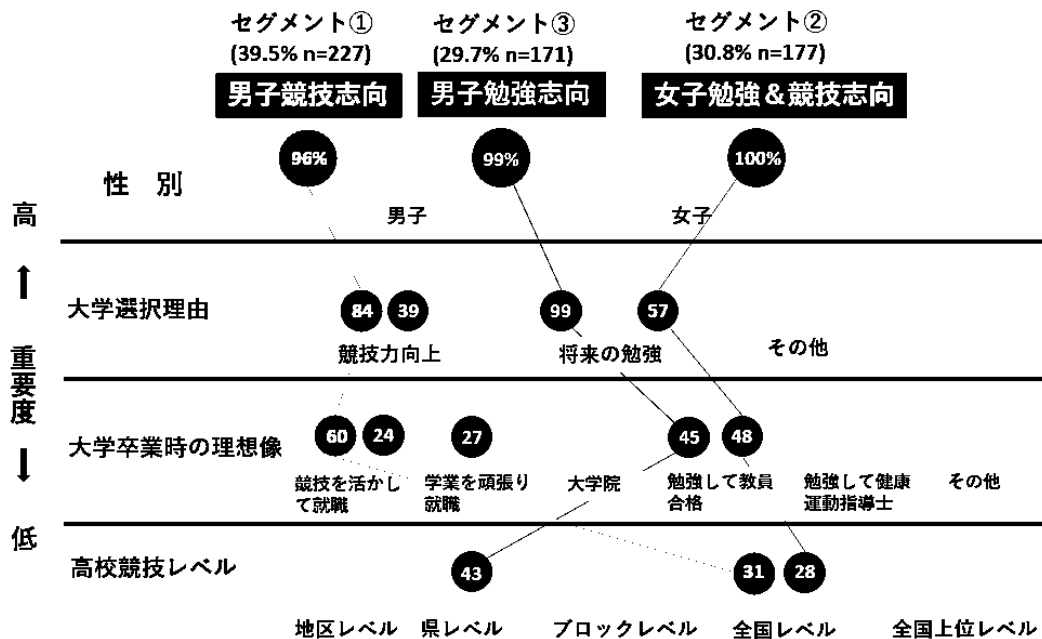


図1. 各セグメントの特徴

生は、コンピテンシーの下位尺度である「対課題基礎力」において、MAの学生より高かった ($p < .05$)。さらにFASの学生は「対自己基礎力」においてMAの学生より高く ($p < .05$)、MSの学生は、セルフコントロール得点が、MAより高かった ($p < .05$)。

考察

分析対象学部の新入生に3種類のセグメントが存在したことから、当該学部の受験を検討する高校生においても、同様のセグメントが存在する可能性がある。今後は、本セグメンテーション結果を踏まえて、エンロールメント・マネジメント（高校生が大学に興味を持った瞬間から、入学、在学、卒業とその後の一生までをサポートする総合的な学生支援）を構築していく必要がある（遠藤，2017）。

分析対象のスポーツ専門学部では、「文武合一」を掲げ、理論と実践の融合を学びの基本としている。そのため、本分析において男子学生が、競技志向と勉強志向セグメントの2つにセグメンテーションされたことは興味深い。今後は、学業成績等を含めて、この点に関する正確な分析を進める必要がある。また対象学部では入学からの2年間は、専任教員が学生10名程度のクラス担任として、必要な支援を行っている。このような支援の場において、学生の志向性を把握するためにセグメンテーション情報を活用できる可能性がある。

まとめ

F大学スポーツ専門学部新入生は3つのセグメントに分類され、男子勉強志向セグメントの学生は他のセグメントの学生よりコンピテンシーおよびセルフコントロール得点が低かった。

文献

- 1) 遠藤通政（2017）大学マーケティング研究における戦略特性に関する一考察，大学評価研究，16：101-113.